

第1工学系 同窓会報

創刊号(H10.3)



この3つのイラストは『火』、『手』、『水』の象形文字をもとに、エネルギー変換工学、機器設計学、熱・流体工学をイメージしています。

豊橋技術科学大学 第1工学系 同窓会

第 1 工学系同窓会報の創刊に当たり、会長より一言ご挨拶申し上げます。

同窓会報発刊に寄せて

会長 今泉 敏幸

年が明けてからもう一月以上が経過してしまいましたが、まずは新年おめでとうございます。昨年 4 月には、第一工学系同窓会の設立総会を盛大に開催することができましたこと、これも一重に皆様方のご協力とご支援によるものであり、まことにありがとうございました。設立総会には、学長の後藤先生をはじめ多くの先生方にもご臨席いただき、あらためて厚く御礼申し上げます。

さて、同窓会が発足してから早 10 ヶ月が過ぎようとしておりますが、会則の作成や活動計画の具体化など皆様にお約束したことが殆ど手付かずのうちに、日にちだけが過ぎてしまい、内心心苦しく思っております。また、昨年はガルーダ航空機の墜落事故で大竹先生がご殉職されるという残念で悲しい出来事がございましたが、会員の皆様には行き届いたお知らせができず、緊急時の連絡網の弱さも痛感しております。

そのような中で、この度、同窓会報の発刊に漕ぎ着けることができました。内容の充実などまだまだ課題はありますが、真に会員の皆様方のお役に立つ会報に育てていきたいと思っています。なお、会員相互の連絡網の強化に向けて、会報に加えて E-mail の活用も考えておりますので、アドレス帳作成にご協力をお願いします。

言うまでもございませんが、第一工学系同窓会は会員の皆様が作り上げる会です。皆様方の積極的なご参加とさらなるご協力をお願い申し上げます。

技科大の開学時より 1 系の教授を勤められ、現在岐阜高専の校長をしておられる沖津先生より寄稿して頂きました。

豊橋を回想して

岐阜高専校長，元 1 系教授，名誉教授

沖津 昭慶

1978 年に第 1 回入学式を挙行了した技科大の開学は、当時袋小路といわれていた高専の在学生にとってはこの上ない朗報でした。1 系の創設準備は斎藤先生の指示を受けながら大竹先生と私でまとめました。それから 14 年間の豊橋時代は、40 才の半ばを過ぎて突然四国から出てきた私にとって、印象に残る人生経験となりました。当時の大学は家族的な雰囲気であり、宿舎でコンパや麻雀をしたり、教官有志でゼミをやったことなどが思い出されます。担当した専門分野ではレ

ーザーホログラム、モード解析、数値解析などを通じて全国の高専から選ばれてきた学生諸君の才能に接して、頼もしく心豊かな思いをさせてもらいました。時折、論文の別刷を取り出しては当時を思い出しています。近年高専は多くの面で改革が進みました。大学編入学の途が広くなり、専攻科も設置された結果、技科大のポジションも変わってきています。高専にとっては望ましいことですが、技科大としてはより一層の経営努力が求められています。そのためにも、この同窓会が 1 系の力強い支援組織として発展してゆくことを願って止みません。

私は 1991 年から 7 年間の岐阜高専での勤務を終え、4 月に高松に帰り余生を送ります。同窓会員諸君のご活躍を祈念いたします。

現系長の蒔田先生からも寄稿して頂きました。

「雑感」

～開学からの 20 年を省みて～

機械システム工学系長

蒔田 秀治

本学も創立 20 周年を迎えた。私が本学に奉職したのは開学して 3 年目のことである。当時はまだ開学から間もない頃のことであり、キャンパスの整備も整わず雨や冬の強風に悩まされたことを今も鮮明に憶えている。大学周辺も発達しておらず、食事やコーヒーを一杯飲むにも遠くまで出かけて行かなければならなかった。しかし、よく酒を一緒に酌み交し、旅行やスキーに行くなど楽しい思い出も多い。

当時は研究室の設備や機器も充分には整わず、卒研や修論にも苦労が多かった。学生の中には私の官舎に来て夜食を食べてから、また研究室に戻って実験を続けるような人も数多くいた。その様な学生の多くが、卒業後も未だに私の家族や研究室の後輩と連絡を取り合い、極めて親密な関係を保ってくれているのを見て望外の喜びを感じている。

当初エネルギー工学系として出発した本工学系は、現在では機械システム工学系に名称を変更した。その間に約数百名の卒業生を輩出している。それら多くの人材が現在の日本の工業社会を構成する種々の分野で優れた活躍をするようになってきた。また、少なからぬ人たちが既に工学博士の学位を取得し、研究や教育の第一線で活躍している。

現在、大学を取り巻く社会的背景は急激に変化し、本学もそれに添って大きな改革を断行しつつある。その様な時代に卒業生諸君が各々の分野で高い社会的評

価を受けつつあるということが、現在本学での教育を担う者にとって最大の援助となっている。同窓会会員諸君のより一層の健闘を祈ります。

以下は同窓生からの寄稿文です。次の文章を寄稿された藤川氏は1系同窓会の副会長を勤めております。

近況報告

一期生 豊田中央研究所

藤川 武敏

東名高速道路、名古屋インターより猿投グリーンロードを東進、約10分で私が勤務する豊田中央研究所に到着します。周りは緑豊かな田園風景...と言えば聞こえは良いのですが、平たく言えば豊橋技科大と同様、田舎です。ただ、大学のような香水が臭わないのはまだ幸いです。当研究所はトヨタ自動車、デンソー等トヨタグループ9社の中央研究所で、従業員数は約1000人です。技科大の卒業生も12名おり、内6名が第一工学系の出身者です。社内では同窓生の集まりとして、「雲雀会」という親睦会を結成しています。本同窓会でも一期生ということで副会長を仰せ付かっていますが、雲雀会でも同じ理由から名誉会長をやっています。たとえ後輩達がどんなに出世しても、この会の中では私が一番偉いという訳です。

私が所属するのは機械一部で、ここでは主にエンジン、熱流体関連の分野を扱っています。大学時代の修論がレーザを用いた燃焼計測であったせいか、入社後も一貫して、エンジンシリンダ内のレーザ計測による現象解析を担当しています。別に覗きが趣味という訳ではありませんがシリンダヘッド、ブロック、ピストンの全てに観察窓を取り付けた「可視化エンジン」なるものを作って、エンジンの後ろから前から、あるいは下の方から中を覗いては喜んでいました。(このエンジンの写真はやや古いバージョンの物ですが、当所のインターネットのホームページ「hppt://www.tytlabs.co.jp/」の表紙で見ることが出来ます。)特に最近、シリンダ内の燃料混合気の濃度測定や、NO,OH等の燃焼生成物挙動を、LIF(レーザ誘起蛍光)法という手法を用いて調べています。昨年は、その結果の一部をアメリカの学会で発表する機会がありました。この時、以前アメリカ出張した際に、訪問先で知り合いとなったアメリカ人のお宅に泊めてもらえることになり、アメリカンライフの一端を体験することができました。風俗、習慣から子育てに至るまで、日本とはまるで違って、とてもExcitingな経験でした。現在の解析対象は、最近話題の直噴ガソ

リンエンジン(トヨタD-4エンジン)で、そのシリンダ内に噴射された燃料が空気と混合してゆく状況を調べ、エンジン開発をサポートしています。この結果についても、今年日本で開かれる国際会議で発表の予定で、今はその原稿作成に休日返上で苦勞している所です。

家族は3人の子供を含む5人家族。上は双子の小学生、下は保育園の年中で、打ち分けが下手なせいか全て女の子になってしまいました。2年の間に3人の子供が集中したため、赤ちゃん時代の子育ては正に戦争で、授乳もおむつ替えも寝かし付けもすっかり得意になってしまいました。でも、苦しい時代がいちどきに過ぎてくれたので、一段落ついた今は比較的楽です。ただ、今のうちはうさくつきまとう娘達ですが、いつか家の中で孤立する日が来るのではないかと、恐れています。そうはならないよう、時間の空いた休日には、家族の車イブサムでせいぜいサービスに努めています。

「エネルギー工学系は不滅だ！」

平成2年修士卒 流体研

服部 康利

1系OBの皆さんへ、お元気でしょうか?ご承知のように我がエネルギー工学系は、いつのまにか「機械システム工学系」となっていました。

私は、入学する時、「エネルギー工学」だからこそ希望したのにその名前が消えてちょっと残念です。現在、私は東邦ガスに勤務しており、エネルギー業界で仕事をしてますが、入社面接の時は、「エネルギー工学専攻」を売りにして入社しました。でも他のメーカー希望の人は「物理屋」にみられる人も多いらしく、就職が厳しい昨今の現状をみると名前を変えるのは時代の流れで仕方ないのかなと思います。今は亡き大竹先生の「エネルギー論」の講義がとても懐かしく思えます。ところで、最近皆さんは豊橋へ来たことがありますか?豊橋駅はすっかり近代化されて昔とは変わってしまったって迷ってしまいました。小松原街道も知らない店が増え、卒業から8年も経つと変わるもんだなと思いましたが大学付近はまだまだ田舎。でも自然が近くあるのはいいもんです。会社でストレスがたまった時なんかは「なーんにも考えずに寺沢の海に行ってボーッとしたい!」と思う今日このごろです。では皆さんお元気で。

P.S.(近況報告)

2月7日に結婚します!今までかたくなに、車にこだ

わってアプローズのMTに乗っていましたが、嫁さんはAT限定免許しかない。ついにMT車を手放すか検討中。

ご結婚を祝し、末永いお幸せを祈念致します。少子化傾向に歯止めをかけるべく頑張ってください。

近況報告

平成元年3月修了

府立高専 杉浦 公彦

私は豊橋技科大を修了後、企業に3年間勤めておりましたが、縁あって母校の府立高専へ戻ることになって早6年が立ちました。高専へ戻って学生指導を行う上で大学時代の充実した経験談を話したりしています。それが乗じて今では、毎年、学生を技科大に連れて行き、いろいろな研究室を見学するツアーが恒例になるほどです。最近では、ほとんどの有名大学が編入の門戸を開いてくれ、学生もどちらかといえばそちらの方へ流れてしまうのが現状です。そのような中で、やはり母校でもあり、良い経験の思い出しかないこの技科大へ教え子が一人でも多く進んでくれるよう、微力ながら頑張っています。

私の個人的なことでは、恩師であり、かつ、学位取得のためにご指導いただいていた大竹一友教授が昨年9月に不慮の事故によりご他界されました。かなりのショックで、何ヶ月間か戦意喪失の状態でしたが、先生の教えを広げるために頑張らねばと思い、研究を再開しました。幸いなことに、先生の後を引き継がれた成瀬助教授の Back-up により、学位の道はつながることができました。今は一日も早く学位を取得し、大竹先生の墓前で報告できるよう、そして先生の教えを学生に伝えていくよう日夜努力しています。

業務紹介等

1990年3月流体研修了

保永 和男

現在私は(株)東芝富士工場海外エアコン部に所属しており、主に東芝のタイ工場にて製造している海外向けエアコンの設計開発に携わっています。

海外向け(主にヨーロッパ、東南アジア、中南米向け)のエアコンは日本国内向けのエアコンと大きく異なります。日本国内向け機種ではTVコマーシャル等で以下のようなエアコン機種の広告に接することも有るかと思います。(省エネ、PAM、ツインロータリ、身体にやさしい風、ずば暖、大清快、インバータ%%%)

他社コピー含む)つまり日本国内向け機種は、他の家電製品同様に至れり尽くせりの機能満載機種となっております。

一方海外向け機種は当社に限らず「冷やすだけ」、「冷暖運転のみ」といったシンプルなエアコンが主流で、インバータさえ搭載しておらず、室温の調整はコンプレッサのON-OFF動作にて行っております。(冷蔵庫に近い動作)背景には電気代が日本ほど高くない事も要因の1つですが、何よりも価格にて消費者の購買動向が左右される事が有ります。つまり日本のエアコン購買の主流は15~20万円程度の機種ですが、海外では5~10万円です。(現地物価で考えるとこれでもかなり高い買い物)この値段では日本のようにいろいろな機能を織込む事ができないのです。コストダウンという開発目標のため、国内機種で使用した金型や部品を流用する事も多く、開発の幅や自由度が狭められるのが少々不満と言えは不満となる職場です。

大学時代にやっておけば良かったと痛感しているのはやはり英語学習でしょう。仕事柄海外の代理店や海外市場へ打合せ、調査に出向きますが、かなり苦労、難儀しています。業務、技術範囲に関する会話では何とか意志の疎通を図っていますが、打合せ後の食事時や送迎時の何気ない一般の会話がかなり緊張します。家族の話、スポーツの話、趣味の話程度で打ち止めます。経済や政治に話が及ぶと、とたんに「貝」と化します。(ちなみに当社では海外出張時に宗教の話は止めると指導されています。指導されなくても私は仏教を英語で説明できませんが%%%)

皆さん街で東芝のエアコン(に限らず東芝製品)を見かけたらこんなやつが開発してるんだと目を止めてください。そしてできれば購入いただければ幸いです。

以上雑文読破ありがとうございました。今後も東芝製品をよろしく願います。

”近況報告”

流体研OB 吉見 成正

平成3年エネルギー工学専攻修了・流体研の吉見です。楽器のヤマハに就職し、現在は住宅設備機器の開発に携っています。業務では、皆さんの暮らしを変えることのできる”新しい価値感を創造する製品づくり”を目指して頑張っています。簡単な近況報告ですが、今後ともよろしく願います。

近況報告「技科大生の宿命か？」

日本ガイシ(株)エンジニアリング事業本部
開発部 第1プラント開発課
12期修士課程修了(大竹研究室)

小泉 一博

修士課程を修了して早5年の日々が過ぎようとしている。つい最近新入社員だったような気がするが、ふと気がついてみればいつの間にか部署の中では中堅社員となってしまった。私は恵まれたことに大学での研究内容がほぼ直結して会社での業務に繋がっており、比較的研究開発の業務が効率良く進んでいると自分では思っている。

しかし、最近になって大きな壁にぶち当たってきた。それは3年次編入技科大生の宿敵とも言える英語である。近年の環境関連事業を取り巻く情勢は非常に活発化しており、国内のメーカーは積極的に海外企業からの技術導入等を行い営業展開をしている。このような中、当社も欧州企業からの技術導入を行っている。職場に英語なるものが頻りに飛び交いだした今日この頃、今まで専門分野に比較的強い技科大生を誇りに思っていたのに...

国際派エンジニアであった故大竹教授を目標に「今年こそは英語の勉強だ!」と毎年思い続けてきたが、現実の業務&遊びの日々に追われて過ごしてきたこの5年間、今は正に「Oh, my God!」といった状態に陥ってしまった。

近況報告

感本 広文

H4年3月修士11回修了 みな本です。皆さんお元気でしょうか。

私は博士課程に進学後、1系に就職しましたのでまだ就職してから3年です。大学では、会社と違って社員教育のようなものがないので、礼儀作法にしろ何にしろ我流でやってしまって大失敗をやらかしています。このごろようやく仕事の年間を通じた流れや日々の仕事にも要領を得てきたという感じです。家庭の方は子供が男の子と女の子が一人ずつの4人家族です。子供の元気さと成長に驚かされると共に、自分もこういう時期を通り過ぎてきたんだなあと思ったりします。というわけでともかく元気でやっています。皆さんもそれぞれご活躍されることを祈ります。

この度の1系同窓会では事務局担当を仰せつかりました。頑張りたいと思いますのでご支援ご協力をお願いいたします。

E-mail:minamoto@mech.tut.ac.jp

近況報告

H4年3月修士11回修了

宮原 秀峰

大学を卒業しTOTOに入りはや数年。1/11で30代になってしまう今日この頃みなさんはいかがお過ごしですか?会社では以下のような経歴をたどっております。

‘92 : 固体電解質型燃料電池の研究(基礎研究所)

‘93、94: アルカリイオン水生成器の研究(商品研究所へヘッドハンティング)

現在「アルカリ7」という商品名で発売中

‘95、96: 24時間風呂の研究

この時レジオネラ菌の問題で24時間風呂業界は大打撃

私もまいりましたよ。

‘97、98: 「大便器」の研究

とうとうTOTOの基盤である便器関係のお仕事に...

というわけで今は便器の仕事をしています。ウンコ関係のことなら何でも聞いて下さい。部署は「商品研究所」という開発の一手前までを担う部署です。

私生活では

‘92~96 : 平々凡々な暮らし

場所が神奈川県茅ヶ崎市のため湘南ボーイになるべく、サーフィンを始めようやくそこそこの腕前になりました

‘97.1.26 : 独身時代に別れを告げました

ああ、あのころに戻りたい...

‘97.2~ : パソコンに目覚める

インターネットにはまっております。懸賞など出してますが全然当たりません。どうやったら当たるのでしょうか。何か知ってたら教えて

‘97.12 : デジカメ購入

何でもバシバシ撮りまくっている状況。

「パソコンへの保存」は容量の問題があるため、ビデオテープに入れようと思っています。早く何とかしてほしいもんです。

: ケーブルテレビ加入

入っている人いますか?なかなか楽しめますよ。ただ夜更かしするのが問題...

‘98 : ISDNに入ろうと思っています。「28.8」では遅すぎてもう我慢の限界だ。という状況です。

私は学生時代に摩擦をやっていたにもかかわらず、会社に入ってから水や菌や便器といった全然違うことをやっております。みんなはどんなことをやっているのでしょうか？

2年ほど前、仕事の関係で豊技大へ行きましたが、学内および駅から大学までの沿線の風景はかなり変わっております。年月の流れを感じずにはおれません。

以上とりとめのない文章になって申し訳ありません。暇な方はメール、あるいはお近くにいらした方は湘南を案内したいと思います。いつでもご連絡下さい。

住所：神奈川県茅ヶ崎市矢畑 681-4 藤和シティコープ茅ヶ崎 302 号

tel : 0467-57-5736

e-mail : nq3h-myhr@asahi-net.or.jp

宮原 秀峰

近況報告

H4年3月修士11回修了 安川電機

田畑 秀之

みなさん元気になっていますか？私は相変わらず元気です。最近、年甲斐もなくテニスに汗を流しています。まじめにやると結構ハードです。走るの止めちゃいましたけど、当社陸上部の筆頭応援団として年中陸上競技の追っかけをしています。

2年前にボストンマラソンに行ってきました。今、このボストンの思い出だけで生きているようなものです。長すぎるのですが、このメールのあとにその時の模様を送信します。

あまりにも長かったので割愛させて頂きました。氏のボストンマラソン体験記を読みたい方は、同窓会事務局の感本(minamoto@mech.tut.ac.jp)にお問い合わせ下さい。

会長プロフィール

氏名 今泉敏幸(いまいずみ としゆき)

略歴

1969年 鈴鹿工業高等専門学校 機械工学科 卒業

1969年 川崎重工業(株) 入社 (1978年退社)

1982年 エネルギー工学修士課程修了

1982年 中央発條(株) 入社

現在 同社 技術・開発部 参事

略歴からおわかりのように、豊橋の1期生では一番の年寄りです。そういうわけかどうかはわかりませんが、同窓会の会長を引き受けることになりました。

現在、中央発條でばねの研究を行なっています。「発

條」と言う言葉は日本の古い言葉で「ばね」という意味です。ワープロの漢字変換で誤って「発情」としないようにお願いします。しかし、「発條」は英語では Spring、動物が「発情」するのは Spring(春)ですから、以外と語源は近いのかもしれませんが。

少し宣伝になりますが、昨日日刊工業新聞社から「ばねの有限要素解析」という本を出しました(共著ですが)。興味のある方は是非買って下さい。兎に角、ばねに関してはかなり詳しいつもりですので、ばねでお困りの方がおられましたらご一報を。

副会長プロフィール

氏名 藤川武敏(ふじかわ たけとし)

群馬県出身

昭和57年3月、豊橋技術科学大学エネルギー工学専攻修士課程修了

昭和57年4月、株式会社豊田中央研究所入社

現在、豊田中央研究所、機械一部燃焼研究室

役員一覧

会長 今泉 敏幸 (1期、imaizumi@ctc.chkk.co.jp)

副会長 藤川 武敏 (1期、e0633@mosk.tytlabs.co.jp)

理事 池崎 勇 (1期)

柳田 秀記 (1期、yanada@mech.tut.ac.jp)

秦 信一 (3期)

感本 広文 (11期、minamoto@mech.tut.ac.jp)

関下 信正 (11期、seki@mech.tut.ac.jp)

監査 小西 正則 (1期)

設立総会・懇親会報告

平成9年4月5日(土)に、豊橋グランドホテルにて第1工学系同窓会の設立総会・懇親会が開催されました。卒業生の出席者数は37名であり、後藤学長を始め、沖津、故大竹、竹園、小沼、北村、埜、畔上、関東の各先生にもご出席頂きました。楽しく、和やかな一時を過ごすことができました。

故大竹教授、故富村事務局長の大学葬

インドネシアで不慮の航空機事故に遭われたご両名の大学葬が昨年の10月31日(金)に豊橋勤労福祉会館にて執り行なわれ、本同窓会より、弔電と香典をお出し致しました。

会計報告

第1工学系同窓会の財政状況を以下に示します。収支の明細は省略し、大略のみを記します。

現在の資金総額：約140万円

年間収入：約20万円(平成8年度実績)

収入は新規入会者数に依存します。

年間支出：約20万円(平成8年度実績)

大学全体の同窓会報の発送費(各系負担)が支出の約8割を占めます。残りは名簿データ修正作業や会報発送作業時のアルバイト代等です。

事務局よりのお願い

会長が冒頭の挨拶でも申しておりますように、会員への連絡網を強化したいと考えております。電子メールアドレスをお持ちの方は、下記アドレスの何れかにお知らせ頂きますようお願い申し上げます。

また、住所や勤務先等の変更の折にも必ずご一報頂くようお願い致します。電子メールを利用しておられない方は、下記住所に郵便でお知らせ下さい。下記の新郵便番号は技科大専用の番号ですので、郵便は大学名のみで届きます。

1系同窓会事務局メールアドレス

yanada@mech.tut.ac.jp

minamoto@mech.tut.ac.jp

seki@mech.tut.ac.jp

郵便用新住所

〒441-8580

豊橋技術科学大学 第1工学系同窓会 事務局

編集後記

第1工学系同窓会では「堅苦しくない会報」の発行を活動項目の一つに掲げております。今回、呼び掛けに応じて、9名の同窓生からの寄稿がありました。寄稿して頂いた方々には改めてお礼申し上げます。また、開学当初より技科大発展に尽力された沖津先生の高松での益々のご健勝を祈念したいと思います。

同窓会の財政基盤がまだ脆弱であるため、印刷をした立派な会報は作れず、ワープロとコピーにより作成しました。加えて、ワープロソフトを十分に活用していないものが編集しましたので一段と見栄えはよくありませんが、その辺の事情をご理解頂ければ幸いです。

この会報が同窓生相互の気軽な連絡や情報交換の場として機能していくことを願っております。近況報告、友人・先輩・後輩へのメッセージなどを前記アドレスにどんどんお寄せ下さい。また、同窓会報の内容について、ご助言やご意見を頂ければ幸いです。

皆様の益々のご健勝を祈念致します。

柳田 秀記 (同窓会事務局担当)